

思い込む政権の未熟さがあり、ミサイルを撃ち合う戦争において実際有事のとき海兵隊が抑止力になるかという議論から始めるべきである。現政権はアメリカと対等に交渉できる能力が不足しているとの発言がありました。

務台先生からはTPPはアメリカの支配下に入っている協定である。日本がこれに乗ることが果たしていいことなのか、アジアに押しつけようとするアメリカの先兵となることで、アジアの諸国が日本をどう見るかも考えなければいけない。また、農業よりも医療・金融・経済に及ぼす影響が大きい。なぜ



今TPPなのか、他の方法はないのかしっかり考える必要がある。特に医療において安易にアメリカ主導によるグローバルスタンダードに乗ることは世界に誇るべき日本の国民皆保険を崩壊の危機に陥らせかねないと発言されました。

篠崎先生は、1978年WHOに勤務されました。WHOは、「世界の飢餓、貧困をなくせば、豊かになり自然に戦争も紛争もなくなる。豊かになるには健康を保つこと、医療制度を保つことがその中核になる」ことであり、ヒューマン・セキュリティ（人間の安全保障）が大切であるというアジアで始めてノーベル経済学賞を受賞したアマルティア・センの思想に基づいて活動しているとのことがありました。

また今年度、世界的医学雑誌『ランセット』が、50年たった日本の国民皆保険を検証する特集号を発行しました。戦後日本は世界の奇跡と称される発展を遂げ、世界一の長寿国となりました。しかもGNP対医療費が8.5%という安い費用で社会的混乱を招かずに達成しました。その原動力は安い費用で医療

を提供した民間病院であり、この成果は国民皆保険だけでなく日本の文化、教育などに支えられており世界の模範である。しかし日本のこの後は喫煙率、肥満率、自殺率が増加してきており、今までのようにはいかないであろうとのことでした。

総長から今、国の礎として基盤になるものは何か？との問いに山中・務台両先生からそれは教育である。国を守る、医療を守るとはということなのかよく知らないといけない。日本のシステムを客観的に把握して生かしてもらっていることを認識しなくてはいけない。あまりにも無邪気で知らなすぎる。

篠崎先生からはWHOなどでいろんな国を回って来て、グローバルな視点で物事を考えると日本人が持っている秩序、助け合い、譲り合い、思いやりといった他の国にない素晴らしい美徳がなくなってしまふかもしれないと発言されました。

最後に、この記念事業において、広報文化委員会を中心に財団実行委員の皆様には、事業の企画・準備・運営、125年誌・CD・DVDの編集等、式典では式典の準備、受付、接待、記録など多くの方々にご協力を頂きました。また駐車場の方々は当日あいにくの冷たい雨での車の誘導で大変ご苦勞をおかけしました。皆様のお陰をもちまして無事式典を終えることができましたこと感謝いたします。



いつも優しく

社会医療法人 城西医療財団
広報文化委員会 編集

社会医療法人 城西医療財団 創立125周年

ご挨拶

社会医療法人 城西医療財団
理事長・総長 関 健



城西医療財団は、明治19年11月11日の創業以来、本年百二十五周年を迎えました。これも偏に地域の皆様の温かいご支援の賜物と深く感謝申し上げます。次第です。

2000年ミレニアムを祝賀気分を迎え、それから11年経ちました。この間は、世界経済の停滞、世界各地での災害の多発があり、その終着が3.11東日本大震災でした。2万人もの死者・行方不明者を出し、インフラもズタズタにされました。国土すらゆがみ、すれを生じました。復興が叫ばれる中、財源の問題、円高によるデフレ基調からの脱却、東京電力福島第一原子力発電所メルトダウン事故の収束、

等山積する問題解決を現政権が担へるか、国民の間に不安が高まってきてみます。

国民皆保険制度の実現から50年、介護保険制度施行から10年を経て来年度は診療報酬と介護報酬の同時改定が行われます。社会保険制度は、年月を経て制度疲労が生じてきてをり、年金保険にみられるような破綻寸前の状況に陥つたものも出て参りました。かうした時にTPPのやうに外国勢力による圧力に屈して日本が侵犯されるならば、半世紀守つてきた国民皆保険制度はそのスキームが崩れ、ひいては営利企業による医業経営の道が開かれることにもなりかねません。これからの医療は、機能分担と連携

いつも優しく

社会医療法人 城西医療財団
〒390-8648
長野県松本市城西1-5-16
TEL 0263-33-6400
FAX 0263-33-9920

【目次】

- 理事長・総長 関 健 ご挨拶 ……1～2
- 125周年記念式典について ……3～4

＜城西医療財団 理念＞

私達は、病める人、障害を持つ人にいつも優しく、最良の医療サービス及び福祉サービスを一体的に提供する。また、心身の健康保持・増進を志向する人に最良の保健サービスを提供する。利用者を身体的、精神的、社会的、そして倫理的に診療し、科学的根拠に基づいた治療を行う。

ホームページ
<http://www.shironishi.or.jp>

記念式典次第

開式の辞
 理事長・総長式辞
 御来賓祝辞
 功労者表彰
 財団スポーツ大会表彰
 閉式の辞

<休憩>

討論
 「医療と国防は国の礎」



- 山中 昭栄 先生
 - ・元防衛施設庁長官
 - ・全国町村会事務総長
- 務台 俊介 先生
 - ・元総務省大臣官房参事官
 - ・神奈川大学法学部教授
- 篠崎 英夫 先生
 - ・元厚生労働省医政局長
 - ・ミサトピア小倉病院院長
- コーディネーター
 関 健
 - ・社会医療法人城西医療財団
 理事長・総長

医療と国防は国の礎

討論

社会医療法人 城西医療財団 創立125周年記念「市民公開講座」

の方向に向かふことは避けられません。各々の法人が自らの守備範囲を定めてがつちりと守らないと、敗北することは目に見えてをります。

私共は、創立百十五年から百二十五年に至る10年間に、医療法の改正に伴って特別医療法人を経て社会医療法人になりました。より公益的な医療法人として認定されたこととなります。創立百二十五年を記念し、より社会に貢献すべく以下の事業を記念事業として計画してみます。小児病棟の建設、精神障害者自立支援ハウス（グループホーム・ケアホーム）の建設、精神障害者就労支援事業、等であります。皆様方の絶大なるご支援を賜りますようお願い申し上げます。

本日は、多数の皆様にご臨席賜り、かくの如く盛大な記念式典並びに討論会が挙行できましたことを重ねて深謝致します。



社会医療法人 城西医療財団 創立125周年記念式典

城西医療財団創立125周年記念式典が平成23年11月11日深志神社梅風閣において、地域、行政、医療関係者、財団職員約250名を迎え盛大に挙行されました。

総長は式辞で125周年を迎え、地域の皆様の温かい支援の賜と感謝申し上げます。しかし3.11東日本大震災、東京電力福島第一原子力発電所メルトダウン事故により国民生活は不安に陥り、TPP参加は、実現から50年を迎えた国民皆保険の崩壊の危機を迎えるなど問題が山積している。

これからの医療は機能分担と連携により自らの守備範囲を守っていかなければならない。城西医療財団はより社会に貢献すべく小児病棟の建設、精神障害者自立支援ハウス、精神障害者就労支援事業を推進していくと挨拶をされました。

また、県医師会長、県議会議員、各関係市町村長よりご祝辞を賜り、全国の医療関係者など多くの皆

様から頂戴した祝電が披露されました。

功労者表彰では、永年勤務の財団役員や財団事業に協力頂いた地域の皆様、診療に協力頂いた先生方20名が表彰されました。

引き続き行われた討論は『医療と国防は国の礎』のテーマで総長がコーディネーターに、元防衛施設庁長官で全国市町村会事務総長 山中昭栄先生、元総務省大臣官房参事官で神奈川大学法学部教授 務台俊介先生、元厚生労働省医政局長でミサトピア小倉病院院長 篠崎英夫先生により行われました。

討論では山中先生からは3.11などの災害時の自衛隊派遣について、沖縄基地問題ではアメリカの抑止力で守られていることを疑ってはいけないと安易に

